



1 千葉工大の活動拠点「学び舎じんべろ」での集合写真

□ 実施者

＜教 員＞産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター青木 秀幸（千葉工業大学非常勤講師、合同会社いいもんだ代表）

＜参加者＞a. 合宿・週末ボランティア 2016：14 人、2017：20 人、2018：28 人、2019：25 人 全 80 名、5 学部 12 学科

b. プロボノ・スチューデント 全 36 人※

（※千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室の参加者を含む）

c. 災害復旧・復興ボランティア 全 64 人、3 学部 5 学科（延べ 97 人、他の PJ の関係教員、学生参加とともに）

＜協働パートナー＞

【行 政】南房総市 産学協働地域活力創造事業 P T 会議

（市民課市民協働 G／農林水産課／商工課／観光プロモーション課／子ども教育課（教育委員会）／企画財政課）

【企業等】みねおかいきいき館／キンセンカ生産者／合同会社 WOULD

【市民団体等】地域づくり協議会『みよし』／千倉地域づくり協議会『きずな』／白浜地域づくり協議会『きらり』／南房総海遊クラブ／大貫古道の会／丸山地域大井区／和田地域南三原地区／南房総市社会福祉協議会／N P O 法人南房総 I T 推進協議会／名品 G P 実行委員会／フラワーマーチ実行委員会／南房総市ロードレース千倉実行委員会／産業まつ実行委員会／白間津大祭実行委員会／白浜海女まつり実行委員会／N P O 法人 i.PLANNER ほか

背景と目的

南房総市では近年の著しい人口の減少、少子高齢化等の進行によって地域の活力の低下、地域で社会活動の担い手不足が深刻化している。一方国内の地方圏によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており「関係人口」*と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。そのような環境を活かして大学でも実践教育の場として積極的に位置づけ教育効果をねらった取組みが増えている。このように地方圏で拡大する新たな地域側のニーズと都市部大学のシーズをふまえて、本 PJ では、南房総市の地域の担い手となる人材不足等の問題解決にむけて、

- 1) 都市部を中心とした大学生のボランティアやプロボノなど“新しい人の流れ”をつくり交流以上、定住未満の“関係人口として育てる”ことで地域の新たな担い手を確保、育成すること、
- 2) 農山村漁村の中に学生にとって実社会の求める人間力が育まれ学習の動機づけにつながる場をデザインすること、
- 3) 地域側の人材ニーズと学生ボランティアシーズの効果的なマッチングやボランティアマネージメント、支援環境づくりにむけた新たな手法開発を試みること、の 3 点を主な目的とした。

活動内容

（1）プログラムの特徴と工夫

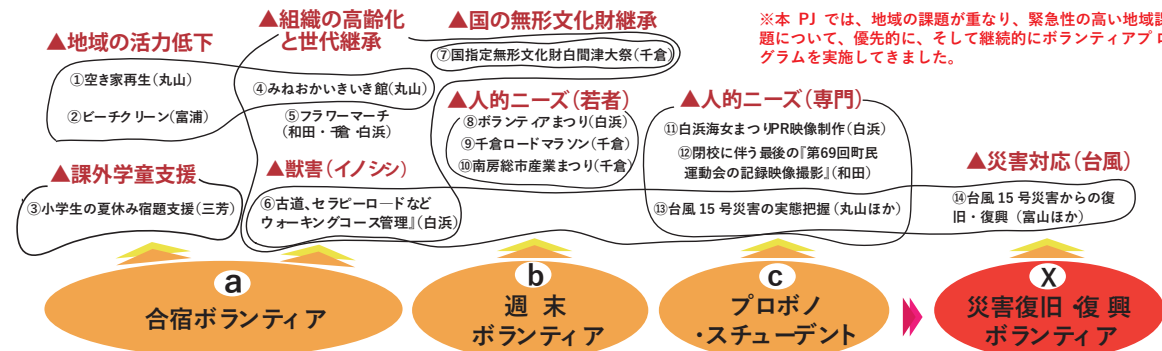
特徴 1. 地域の困りごとに基づくテーマ設定とプログラムの企画立案

実施するプログラムは、大学側の都合によらず本当に地域が困っている課題に沿ったものとするができるか否かが成否を左右する。そのことからテーマは、実施者側が予め南房総市 P T 会議（多部署横断の会議体）から広く課題を聴衆し、協議のうえ絞り込み、関係者と協議を重ねたうえで設定した。

特徴 2. 学生個人が地域とが直接つながる新しい人の流れづくりと関係性継続のための学生費用負担低減などの支援体制づくり

ボランティアの取組みでは、従来とは違った地域への新しい人の流れをつくり出すために、サークル活動やクラス・ゼミ単位での実習、研究室単位での調査研究活動（主に 3 年生～）以外での学生個人（1～2 年生）と地域との関係づくりからはじめた。その為に、ボランティアの募集や応募のやりとりは、極力教職員が介在しないとする大学担当課のスタンスを尊重した。またボランティア後も、関係性が継続するようプログラム期間中には、他の PJ で取組む南房総市でのインターンシップや実習、研究室活動、サークル活動等の情報提供も担当者を通じて積極的に行なった。

（*関係人口とは＝観光などの交流以上、定住未満で、地域や地域の人々と多様に関わる人々）



学生の長期休暇(夏期・春季)を利用したボランティア活動。連続 4～5 日の活動を、地域に滞在しながら、8～18 人の合宿形式でチームとして行うボランティア。

【全学部共通／選択必須教養科目】



週末土日を利用したボランティア活動。日帰りや 1 泊 2 日で数回、現 地に滞在しながら、4 人程度の小 組が学業等を通じて培った知識やスキル を活かして社会貢献するボランティア。

【全学部共通／選択必須教養科目】 【サークル等学外地域貢献支援(単位認定なし)】



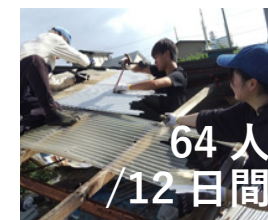
元来社会人の専門家が取り組む社会貢 献活動プロボノを、専門家としての学生 が学業等を通じて培った知識やスキル を活かして社会貢献するボランティア。

【全学部共通／選択必須教養科目】 【サークル等学外地域貢献支援(単位認定なし)】



台風 15 号で被災した南房総市の復 旧・復興作業を支援するボランティア 活動。これまで何等かの関わりをもっ た関係人口である千葉工大の学生・ 教員がなるボランティア。

【全学部共通／選択必須教養科目】 【サークル等学外地域貢献支援(単位認定なし)】



域学協働の工夫！

★本当に困っている現地側ニーズの発掘がキモ。

★「褒められる」「人の役に立つ」「人に必要とされる」「愛される」実感コーディネート。

★活動拠点「じんべろ」と地域通貨「大井ポイント」との連携による域学協働促進のしくみ。*千葉工大「初」・南房総市「初」

さらには、新たに旧丸山町にある空き古民家をを大学拠点「学び舎じんべろ」として整備をし学生側の軽費負担（宿泊代など）を極力低く抑えられるよう工夫した。

特徴 3. 学科横断的な仲間や多様な地域の人との交流を通じた社会基礎力の成長支援と自身の専門性を意識させたキャリア形成支援

学生が地域との関係性を育むうえで学生の自律性・自主性は求められ、学科横断的な仲間、多様な地域の人たちとの協働には、コミュニケーション力が必要不可欠である。本プログラムでは出来る限りそのような社会人基礎力*を発揮させるような場を用意した。またボランティア実施中の空き時間には、現地の関係者との交流を深められるような機会づくりを心掛け、社会人基礎力の足りない能力を自覚させるような機会（ふりかえりなども含む）を盛り込んだ。そのうえで希望する学生には、ボランティア等を通じた得た学びや気づき、自身の成長を継続的に記録し、その後の科目履修や研究テーマ選び、さらには就職等進路選択で役立てていけるような活動や成長の記録集「活動ポートフォリオ」づくりの指導を大学 OB が行った。

（2）実施プログラム 2016-2019 ※【】内番号は上記の実施内容を示す

a. 合宿ボランティア 【全学部共通／選択必須教養科目対応】

__ 2016『春ボラ！フラワーマーチボランティア』 【⑤】

__ 2017『夏ボラ！海・山クリーン大作戦 in 南房総』 【②③】

__ 2017『春ボラ！ボランティア in 南房総』 【⑤⑥】

__ 2018-2019『夏ボラ！村おこしサポーター in 南房総』 【①④】

__ 2018-2019『春ボラ！ウォーキングサポート＆コース整備 in 南房総』 【⑤⑥】

b. 週末ボランティア 【全学部共通／選択必修科目対応】

__ 2016『週ボラ！名品グランプリボランティア』 【⑪】

__ 2018『週ボラ！スポーツ・産業イベントボランティア in 南房総』

【⑨⑩⑪】

__ 2019『お祭りサポーター 白間津大祭』 【⑦】

__ 2019『お祭りサポーター 第 5 5 回白浜海女祭り』 【⑪】

c. プロボノ・スチューデント【サークル等学外地域貢献活動（単位認定なし）】

__ 2018 閉校に伴う最後の『第 69 回町民運動会』記録動画撮影

* 南三原地区町民運動会実行委員会より依頼。 【⑩】

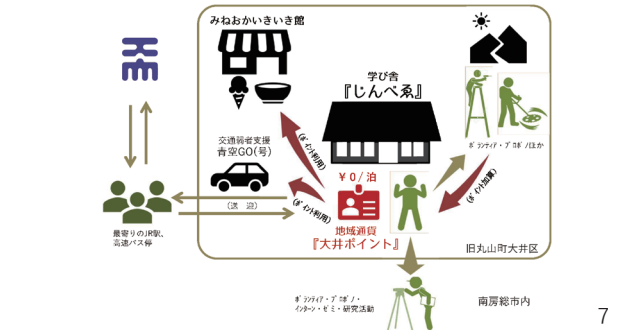
__ 2019 観光プロモーション映像『海女まつり』PR 動画撮影

（*社会人基礎力とは＝地域の中で、多様な人々とともに仕事を行っていくうえで必要な基礎的な能力）



「お金をかけず」に「学びの旅」で「南房総市」に気軽に行ける拠点運営

力と知識経験
↑↓(マ 換)
宿泊場所・食事



6 学生・教員の活動拠点『学び舎じんべゑ』の様子（丸山） 7 活動拠点のしくみづくり
8～10『夏ボラ！海・山クリーン大作戦 in 南房総』の様子（2017）

- * (社)南房総市観光協会からの依頼。 【11】
- 2019 台風 1 5 号 『自主防災かわせみ』記録動画撮影
- * 南房総市丸山地域大井区依頼を受けて実施。 【13】
- X. 災害復旧ボランティア 【臨時対応】
- 2019 年 9 月に南房総市を襲った台風 1 5 号の被害に対する災
- 害復旧と復興に対応したボランティア。延べ 97 人が参加。【14】

成果と課題

●地域貢献

～市民活動や地区活動等の人材不足・活動停滞を補い改善する支援／地域の被災時における関係人口による活きた支援／都市部学生に南房総市への関心を高めるための効果の拡がり（各学科）～

- ▼全体の成果
- ・ボランティアでは平均 1,000h/ 年規模で、地域貢献活動を伴う新しい人の流れをつくれるようになった。
- ・ボランティアだけに留まらず、その他 PJ における地域と大学との関係性（大学関係人口）が、地域側の非常事態（台風災害からの復旧復興）における支援活動につながった。
- ・「南房総市でのボランティア」については、学生の間での評価が経験者からの口コミ等を中心に拡がりをみせており、ボランティア募集では毎回定員を上回る数の応募数となった。
- ・受け入れ側（ex. 市役所担当職員）のプログラムへの企画力と遂行力が向上した。それに伴って学内や学外で市民課を学生ボランティアの受け入れ窓口とする体制が定着してきた。
- ・市内に旧丸山町にある空き古民家「じんべゑ」を大学拠点として整備し、学生や教員の活動や宿泊の拠点として運用することで「空き家の有効活用」と「空き家活用の新たなモデル」（南房総市「初」）を提示することができた。

▼合宿＆週末ボランティアの成果

- ・ボランティアの効果について、学生を派遣した市民団体代表や

市役所担当課からは「高齢化によるイベント運営側の人材不足」や「人手不足による市民活動の停滞」の補完・改善につながったとの報告あり。また 2019 年度では、台風被害の影響等で停滞していた活動への支援によって、その後の活動再開や活動継続へのつながっていった（代表者、担当者談）貢献あり。

- ・参加した南房総市千倉出身の学生の地元の魅力再発見につながった（ふりかえりでのコメントより）。また、学生ボランティアの中には、終了後も「また南房総市を訪れたい」「違った機会に市民活動・イベントを手伝いたい」「企業インターンを考えたい」等の南房総市に対する指向が変化した学生が少なからずあらわれた。

▼プロボノの成果

- ・プロボノについては、放送研究会の専門的なスキルと機材をもって、「歴史的な地域行事の最後」「台風被害からの自主防災活動」を映像記録として残す」ことができ、町民運動会実行委員会や教育関係者、行政区からの評価も高かった。
- ▼課題
- ・行政機関、市民活動団体が抱える担い手不足等の課題（ニーズ）と学生ボランティア（シーズ）とのマッチングの高度化【ボランティア／プロボノ】。
- ・市内市民活動団体、自治会に対する千葉工大学生ボランティアシーズの紹介、地域貢献先進事例解説【ボランティア／プロボノ】。

●教育面

～「褒められる」「人の役に立つ」「人に必要とされる」「愛される」実感を得られる機会の提供／実利の伴うキャリア形成支援～

▼全体の成果

- ・千葉工業大学ボランティアでは、学内すべての学科にあたる 5 学部 1 7 学科の学生が参加できる間口の広いプログラムになった。ボランティア対応プログラムに限ってみても、受け入れ規模は、千葉工大に寄せられるボランティア募集主体の中で「中規模レベル」の受け皿機能を担えた。



11～13『春ボラ！ボランティア in 南房総』（2017） 14～16『夏ボラ！村おこしサポーター in 南房総』（2018-2019）
17～19 小学校の閉校に伴う最後の『第 69 回町民運動会』記録動画撮影（2018、ﾌﾟﾛﾎﾞﾉ） 20～21 台風 1 5 号 『自主防災かわせみ』記録動画撮影（2019、ﾌﾟﾛﾎﾞﾉ）

- ・ボランティアプログラムに絡めて新たに旧丸山町にある空き古民家「じんべゑ」を大学拠点として整備することができ、学生や教員の宿泊場所や活動拠点として運用できたことで、学生側の軽費負担（宿泊代）の削減につながった。
- ・学生との振り返り内容から、概ね社会人基礎力を育む機会を提供できた。特に学科横断的な学生チームの編成やボランティア受け入れ先・実施活動の選定等を工夫することで「多様な人々とともに目標に向けて協力する力」を育む環境づくりができた。実施終了後のアンケートからは、特に「自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力〔状況把握力〕」や「社会のルールや人との約束を守る力〔規律性〕」の成長が確認できた。
- ・地元の千葉工大 OB を絡めた地域側ニーズの発掘と学生ボランティアのマッチングにより、より効果的な地域課題の解決と「現役学生と OB との交流機会の場」をデザインできた。
- ・プロボノで地域に入った放送研究会の参加学生は、学外での活

動実績づくりで利点があること、マスコミ業界への就職を見越した実社会での実務経験の場を提供（就職活動にむけてのキャリア形成）。また、依頼者から感謝されることなどを通じて、やりがいを感じていた。またこれを通じてサークル全体にも、南房総市での地域貢献活動への認知も拡まっていった。

▼課題

- ・ボランティアについて、学生にとってより高い学びを得るためのチームの適正人数の見極め、中間振り返りの導入の仕方。
- ・南房総市での継続的な学びや成長につながる支援環境づくり。

今後の展開

- ①市民活動団体や行政区など地域側のボランティアの受け入れ体制づくり、ボランティアコーディネーターの人材育成。
- ②ボランティア後に南房総市で学びを深めるための学生支援。
- ③持続可能な学生活動拠点の運営。

*表彰・マスコミ掲載など

- ・2019.3.2 房日新聞「住民と学生 3 4 人が汗」白浜城山道 落ち葉や土砂を撤去
- ・2019.9.29 房日新聞「9 日間、ボランティアで汗 ～千葉工業大学学生と教員 がれきの撤去や物資配布で～」ほか
- ・2020.9.19-20 NPO インターンシップラボシンポジウム 2020 実行委員会「若者と地域のつながりをあきらめない～ NPO インターンシップラボシンポジウム 2020 ～」（オンライン開催、トヨタ財団助成、オープニングトークセッションまちの小さな主人公をつなごいかすコツにて登壇・活動紹介）